MINI WING

【通算 195 号】

5/1 発行

製作者：西 和希

ブックマイレージキャンペーンを開催！

～ブックマイレージキャンペーンとは？～

期間中に三陽図書館で借りて読んだ本、
1 ページあたり 1 マイルで換算します。
1500 マイル達成で 500 円分、3000 マイル達成で 1000 円分の
図書カードが貰えるキャンペーンです。

※雑誌、漫画等は対象外

開催期間

5 月 1 日から 7 月 7 日まで

参加したい方は図書館カウンターにお越しください！

私の一冊

『寒山拾得』
著：森鴎外

国語科:本園俊介 先生

『寒山拾得を読んでみなさい』

この小説は、私が高校 1 年生のころ（そう遠くない昔）に、教科書に載っていた森鷗外の短編小説です。教科書にまるまる載せられるくらいだから、本当に短い作品なのですが、高校 1 年生当時、頭をひねりながら何度も読み返したことを覚えています。森鷗外なんて中学生は聞いたこともない作家だろうし、高校生でも鷗外の小説に触れたことのない者は多くいるのではないでしょうか。しかし、この森鷗外という人物は、日本の近代文学史を語る上で絶対に避けて通ることはできない人物です。「自我」という概念を最初に日本人に紹介した作家なんですよ。今では簡単に「自分という意識ね」なんて言えるかもしれませんが、明治期、鷗外が生きた時代に「自分という意識」を持っている人間なんか、ほとんどいないわけです。

鷗外は、そんな封建的な時代にメスを入れた人物なんですね。鷗外の生涯を調べてみてください。鷗外自身と世間との壮絶な闘い、確執の歴史を知ることができるでしょう。

「寒山拾得」は、鷗外が息子のために書いた作品と言われています。最後の場面で、閭丘胤が寒山と拾得に話しかけた後、なぜ寒山と拾得は駆け出して逃げたのか。是非、皆さんの意見を聞かせてください。「盲目の尊敬」しかできない人間が、世の中にどれだけ蔓延しているか。明治期、鷗外が感じていたくだらない人間に対する怒りや落胆が、現代にも通ずることに気づかされるのではないでしょうか。